



福田靖子賞基金を一般財団法人に

インターネットショッピングの楽天が社内公用語を英語にし、武田薬品工業は採用基準を TOEIC730 点以上とした。日本の人口が減少に転じる中、日本企業が生き残るには、世界を相手に事業を展開するしかないのだ。

教育業界としては、英語を自由自在に操り国際感覚がある人を、社会に送り出して行くことが求められているが、主にクラシック音楽を扱うピアノ教育は、それに適した分野だと思っている。楽譜や楽器は世界共通の規格に統一され、ショパンやモーツァルトは世界中どこでも知られている。ジュニアのコンクールやマスタークラスも世界各地で開催されている。ところが、海外のコンクールやマスタークラスに参加している日本のピアノ学習者は、決して多くない。2011 年 1 月に東京で開催された、アメリカのジュニア国際ピアノコンクール「piano-e-competition」のアジア予選に参加した日本人は 1 名のみ。また、2011 年 2 月、韓国の済州島における「ユーロミュージックフェスティバル」は、6 泊 7 日の宿泊・食事・レッスンなど全て込みで約 10 万円という参加料にも関わらず、日本からの参加者が無く、日本人の講師の派遣もキャンセルとなった。

さて、「福田靖子賞」は、ピティナ創立者の故福田靖子の遺志により、ピティナで育った若いピアニストが世界で活躍するための資金として活用して頂くことを目的とした奨学金だが、寄付して下さる方がいらっしゃるの、昨年、一般財団法人福田靖子賞基金を設立した。寄付は恵まれない人に対して行うことという考え方が主流かもしれないが、日本の音楽教育の将来を託す意味で、才能的に恵まれ努力する人への寄付がもっと増えてよいと思っている。

2010 年度にこの財団が助成して海外渡航した学生は 5 人だったが、将来はもっと多くの中高生を海外に出し、それが呼び水になって年間 100 人以上の若き才能が海外に出る時代が来ることを願っている。海外の合宿型マスタークラスに参加すれば、英語の学習意欲を高めるはずだし、音楽的に大きな刺激を受け、そこで得た海外の友達と一生の付き合いになって、音楽を通じた民間外交につながるかもしれない。

福田靖子賞基金の原資は小さなものだが、志は大きい。